

事例  
3-0

「毘沙門台ふれあいセンター絆」のオープン 安佐南区・毘沙門台団地

【取組主体：毘沙門台学区社会福祉協議会】

概要

団地内にある広島市が所有する旧消防職員待機住宅を無償で借り受けてリフォームし、平成28年6月に地域の活動・交流拠点「毘沙門台ふれあいセンター絆（きずな）」としてオープンしました。

取組内容

- 取り壊しが決まっていた市の施設を、地域住民が待ったをかけて、住民の活動・交流拠点として活用したいと、住民自らが利用計画を考え、市に要望しました。
- 元々取り壊す予定であったため、市は、施設管理者としてのリフォームや維持管理の費用負担はしないことを条件に、施設の一部（24戸のうち4戸：延べ床面積約280㎡）を地域に無償で貸し出すことにしました。
- その後、地域が自らの手で資金調達し、上水道の直引き工事や間取り変更のリフォーム等を行い、一人暮らしの高齢者を中心とした日中滞在型の遊び室や、放課後の子どもの居場所づくり、敷地での菜園づくり、軽食の提供など各種取組を行うこととしています。
- 運営は地域住民のボランティアで行い、利用者からは食材等の実費のみを徴収します。
- 利用者はオープンから8か月で4,000人を超えています。



費用

リフォーム費用等	約464万円（間取り改修、上水道直引工事、エアコン、子ども向けの図書、ベビーベッド等）
資金調達	約464万円（地域住民からの募金約152万円、共同募金会助成約148万円、地元企業賛助金（広告掲載料・寄付）約69万円、中国建設弘済会補助35万円、市補助「まるごと元気」住宅団地活性化補助金）60万円）

ポイント

★ 住民の発意による利用計画の提案、住民自らの手によるリフォーム費用等の資金調達、多くの地域住民による募金やボランティア、備品の提供、団地内の高校の美術部の生徒による壁画など、まさに地域が作り上げた拠点です。